

助成対象の概要と推薦理由

プロジェクト名： 伴走支援と一体となったクラウドファンディング型助成プログラムの開発

団体名： 認定特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド

代表者名： 代表理事 田口 晃

所在地： 北海道

本プロジェクトは、北海道札幌市内および旭川市内において、本団体がクラウドファンディングを実施する市民活動団体を選定し、対象団体が寄付を集めるところから伴走する仕組みを持った助成プログラムの開発を行うものである。併せて、広域に広がる道内各地において、本団体が持つ地域の NPO 支援センターとのネットワークなどのリソースを活かし、各地に組織診断が可能な伴走者を増やすための研修も行う。

クラウドファンディングの実施時から団体に伴走する仕組みを持つ助成プログラムは新規性があり、地域の中で新しいファンドを根付かせる実験的な試みであることが評価された。

今回、対象とする地域は札幌と旭川であるが、実験的な取り組みによって得られた知見が、道内各地に広がることを期待したい。同時に地域のニーズを踏まえて助成プログラムの骨子となる趣旨やテーマを作り込んでいく視点を持ち続けて欲しい。

プロジェクト名： 地域の支援力と受援力の双方の向上に向けた助成プログラムの構築

団体名： 一般財団法人世田谷コミュニティ財団

代表者名： 代表理事 水谷 衣里

所在地： 東京都

本プロジェクトは、「まちを支える生態系をつくる」という本財団のミッションを実現するために、市民参加型で「世田谷版事業指定助成プログラム」を開発、運営に取り組むものである。プロジェクトを通じて、本財団の支援力アップと助成先となる活動団体の受援力アップに向けたノウハウ蓄積をめざす。

具体的には、地域の社会課題を発見・設定するために市民や活動団体にも参加を呼びかけたワークショップを開催し、そこで挙げた意見を基に助成テーマを具体化すると共に、助成対象団体のメンター（伴走者）となるプロボノ人材のコミュニティづくりにも取り組む。「世田谷版事業指定助成プログラム」は、2018 年内に公募を開始し 2019 年 4 月に助成を開始する計画であり、並行してメンターを対象とした勉強会や交流会も定期的で開催する。

財団のミッションと応募企画がマッチしており、実現性や伴走支援の具体的なイメージを持てる点などが評価された。本団体には、長年にわたり世田谷の市民活動を応援してきた「世田谷まちづくりファンド」の運営委員やメンターとして関わってきた理事やアドバイザーが複数名おり、その知見や経験も活かしながら、財団のミッション実現に向けて、「助成する力」が高まっていくことを期待したい。

プロジェクト名： NPO の成長・発展に役立つ助成プログラムの開発～地域内外の連携を活用して～

団 体 名： 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

代 表 者 名： 代表理事 小森 星児／実吉 威

所 在 地： 兵庫県

本プロジェクトは、本財団が新規に立ち上げる助成プログラム（有園博子基金）の企画開発と、既に実施している助成プログラム（輝け加古川子ども基金）の見直し・更新に取り組むものである。

個人の遺贈による「有園博子基金」については、テーマは「DV・性暴力・虐待等の被害者支援」と決まっているが、選考方法や助成金額等のプログラムの仕組みについてはこれからであり、企画委員会を立ち上げて、今秋の公募開始をめざして検討を重ねていく。「輝け加古川子ども基金」は、子ども・若者支援をテーマとする個人寄付による基金で、既に3年間継続している。地域のNPO支援センターと協力しながら、過去に行った助成事業の評価と見直しを行い、プログラムの新たな展開をめざす。

本財団では、活動の原点を助成プログラムと捉えており、その企画開発や見直し、更新を丁寧に行うことは同団体のみならず市民ファンド／コミュニティ財団の将来を見据えた取り組みであると評価された。これらの取り組みを通じて多くのステークホルダーやスタッフとの対話や議論を重ねることで人を育てるとともに助成する力が底上げされることを期待したい。

プロジェクト名： 「立ち止まり対話するための助成金」構造化・横展開事業

基 金 名： AKBN（アケボノ）ファンド [設置団体：認定NPO法人アカツキ]

代 表 者 名： 代表理事 永田 賢介

所 在 地： 福岡県

本プロジェクトは、理事会や事務局でのミーティング、受益者や支援者へのヒアリングなど、組織内やステークホルダーとのコミュニケーションに関わる管理費への助成と本団体の伴走コンサルティングをセットで行う「AKBN（アケボノ）ファンド」の制度改善に取り組むと共に、本ファンドの特徴や仕組みを他の助成機関に情報発信していくことを通じた横展開をめざす。

制度改善と横展開に向けた取り組みとして、①助成機関へのヒアリング、②NPOの助成金ニーズ調査、③助成金の出し方フォーラムを実施する。3つの取り組みを通じて、本ファンドの制度改善に向けた情報を収集し、課題を整理すると共に、そのプロセスや結果の発信を通じて助成機関へフィードバックする。

約2年間の企画開発を通じて生まれた組織体制を見直すための助成というユニークなプログラムであり、市民ファンド／コミュニティ財団の「助成する力」として独自の視点や今後の発展性などが評価された。今回の助成を通じて、本ファンドの成長と発展につながることを期待したい。